

大学ポートレート運営会議（第16回）議事要旨

1. 日 時 令和4年2月10日（木） 13:30～15:00

開催方法 オンラインにより開催

2. 出席者

[委員] 小瀬委員、坂根委員、鈴木委員、高橋委員、長谷川委員、林委員、原田委員、
松尾委員、水戸委員、安井委員、柳沢委員

[主査] 小林大学ポートレートステークホルダー・ボード主査

[オブザーバー] 堀家高等教育局高等教育企画課高等教育政策室室長補佐（文部科学省）

[事務局] 土屋大学ポートレートセンター長、井田大学ポートレートセンター教授、
森評価事業部長、勝又大学ポートレートセンター事務室長
（以上、大学改革支援・学位授与機構）、

野田私学経営情報センター長（日本私立学校振興・共済事業団）

3. 議 題

- (1) 大学ポートレート運営会議（第15回）における議決の報告について
- (2) 私立大学等の個別データの公表・活用（共有）について
- (3) 大学ポートレートステークホルダー・ボードからの意見について
- (4) 大学ポートレートにおける取り組みについて
- (5) その他

4. 配付資料

資料1 大学ポートレート運営会議（第15回）議事要旨（案）

資料2 私立大学等の個別データの公表・活用（共有）について（私立大学団体
への意向確認の報告）

（別紙1） 日本私立大学協会

（別紙2） 日本私立大学連盟

（別紙3） 日本私立短期大学協会

資料3 大学ポートレートステークホルダー・ボード委員名簿及び令和3年度ヒ

アリング有識者名簿

資料4	令和3年度大学ポートレートステークホルダー・ボード 主な意見
資料5	大学ポートレートにおける取り組みについて
資料6	令和3年度大学ポートレート参加状況
資料7	大学ポートレート公表画面へのアクセス数について
参考資料1	令和3年度ヒアリング有識者配付資料（知念先生）
参考資料2	令和3年度ヒアリング有識者配付資料（福島先生）

(1) 大学ポートレート運営会議（第15回）における議決の報告について

- ・独立行政法人大学改革支援・学位授与機構大学ポートレート運営会議規則第5条第5項に基づき、鈴木議長より書面により開催された大学ポートレート運営会議（第15回）の議決の報告がなされ、資料1の議事要旨（案）が確定された。

(2) 私立大学等の個別データの公表・活用（共有）について

- ・野田私学経営情報センター長より資料2に基づいて、私立大学等の個別データの公表・活用（共有）について報告があり、水戸委員及び坂根委員より私立大学団体関係者として補足説明があった。

<報告内容>

- ・私学団体からの回答内容をまとめると、私立大学・短期大学は情報公表の重要性はよく理解しており、ホームページでさまざまな情報を公表している。また、大学ポートレートについては、受験生や保護者、進路指導担当者を対象に教育情報を提出するものであり、その趣旨に沿った情報提供であれば賛成である。しかし、データの利用・活用については、個別データをどのような意図で利用・活用するのか不明であり、個別データを分析・公表するにあたっては、データを正しく活用し分析結果を正しく公表するなど、条件や環境を整備する必要がある。私立大学・短期大学は約900校あり、規模のほか地域や設置形態、何より建学の精神、経営方針が異なっているため、説明のない情報や数字がひとり歩きして誤って社会に伝わった場合に、風評被害などによって、特に地方や規模の小さな学校は経営が一気に悪化することも考えられる、との回答であった。

- ・大学ポートレートは既に当初の目的を達成していると考えており、IRでの活用など、今後ポートレートで公表する情報の範囲を広げる、つまりポートレートの教育情報の範囲を変更するのであれば、私立大学・短期大学が納得できるような説明が必要となる。
- ・令和4年2月9日の中教審大学分科会において、当事業団の清家理事長から、それぞれの経営方針等を十分に踏まえ、一律に公表し大学間での比較を可能とすることが大学間の序列化等に繋がらないような配慮が必要と考えられる。大学ポートレートの掲載内容等の見直しにあたっては、各私学団体の意見を十分に踏まえて検討をお願いしたい、との発言があった。
- ・以上の事情を理解いただき、今回の情報の公表について議論をお願いしたい。

<補足説明>

【水戸委員】国公私共通によるデータの公表は日本私立大学協会内でも相当違和感がある。

国公立と私立では補助金の支給格差等があり、授業料や一人当たりの教育設備や教員一人当たりの学生数に響いてくるため、個票でデータを出すことは無理であると考えている向きが多い。私立大学は大学ごとに経営方針や教育方針が異なるため、国公立とは教育・研究の使命は異なってくる。一言で言うと、国私格差という問題が私立大学には奥深い障害があって、なかなか国公私共通という土俵に乗れてこないというように感じる。

【坂根委員】短期大学は小規模校が多いため、一覧化で比較するのは問題がある。ポートレートをはじめたときに一覧化については慎重に議論してほしいとのことでスタートしたと思うので、議論は慎重に行ってほしいと思う。

<主な意見>

【安井委員】ポートレートは、受験生や保護者、高校関係者を対象にして、私立の場合は個性や教育上の特色を紹介するのが目的である。一覧となると数値の部分が多くなり、そこを読み解くのは、なかなか困難だと思うので、質的評価を一覧でやるのは難しいと思う。そういう観点から行くと、探索機能のようなところをさらに付加していくということもユーザーにとってよいのかなと思う。

(3) 大学ポートレートステークホルダー・ボードからの意見について

- ・はじめに、勝又事務室長より資料3について説明があった。次に、小林大学ポートレートステークホルダー・ボード主査より資料4及び参考資料1～2に基づき、令和3年度大学ポートレートステークホルダー・ボードにおいて委員及び有識者から出された意見について報告があった。最後に勝又事務室長より大学ポートレートステークホルダー・ボードの委員改選について説明があった。

<主な意見>

【水戸委員】私立大学版ポートレートの目的は、受験生側からすると、偏差値での大学選びではなく学びたいことからの大学選びができること。自分の能力や適性をどの大学に行けば伸ばせるのか、そのためにどのような教育をやってくれるのか、という期待があると思う。各大学の教育の質の担保は中央教育審議会質保証システム部会で議論が行われているが、学修者本位の教育を展開して4年間で付加価値をつけて社会に送り出すためには、教学マネジメント体制をしっかりと作り上げ、信頼できるディプロマポリシーを策定する必要がある。そのためには教学マネジメント全体を俯瞰して、問題点や課題を抜き出してIR体制を築いていかなければいけない。その総合的な結果として、大学がどのような教育を提供してくれるのか、というものが出てくる。

また、どこが大学の教育や特色を見ているかということ、認証評価機関だと思う。しかし、認証評価の結果の公表については専門家以外には見ても全く分からない。受験生等一般の方々が分かるように公表の仕方を工夫してポートレートの方に組み込んでいくことが考えられる。

【高橋委員】認証評価の結果（適合、不適合）がすぐ分からないのは問題だと思う。細かいことは分からなくても、適合か不適合かは明示的に見えるようにしていることが重要。大きな作業や時間をかけて評価しているため、記載を義務にしてもいいくらいだと思う。

【原田委員】本来法的に情報公開しなければいけないものをポートレートの中に如何に反映させることができるかが課題になってくると思う。また、未だにデータベースになっていないものを議論するのはどうなのかと思う。もう少し必要な情報だけをSNS等使って公開していく、さらに新しいものが必要であればもう一つ違ったものにしていくという風にしていく必要がある。

(4) 大学ポートレートにおける機能拡充・改修等について

- ・勝又事務室長より、資料5に基づいて大学ポートレートの機能拡充・改修等について説明があった。その後、資料6及び資料7に基づき大学ポートレート参加状況及びアクセス数について報告があった。

(5) その他

- ・特になし

以 上